歴史総合-DX

**1922年①（大正11）　ワシントン軍縮会議・南洋庁**

1921年（大正10）7月に上海のフランス人租界にて、コミンテルン（国際共産主義組織）の主導にて湖南省・長沙の毛沢東ら中国各地（北京・上海・広東・湖北・湖南・山東）と日本とパリの中国人で結成された共産主義組織を糾合する形で12人（もしくは13人）が集まり、中国共産党の「第1回共産党大会（一全大会）」が開かれた。 11月には日本に亡命していた孫文が広州（広東省広州市）に戻り、軍政府を樹立し、1922年（大正11）5 月に軍政府を廃して正式に「中華民国政府」を樹立し、また、夏には中国共産党に周恩来（後の首相）が入党した。一方、同じ1922年（大正11）の2月には、大戦後の懸案事項となっていた「ワシントン軍縮会議」が決着、駐米大使の幣原喜十郎（戦後の第44代首相）が全権として参加して批准した条約では、戦艦の保有総トン数が 英米を10として、日本はその6割とされ、軍部の中に不満が充満することとなった。3月から東京・上野公園で「平和記念東京博覧会」が始まったが、会期中4 月には、太平洋のミクロネシアの南洋群島を統治する 「南洋庁」（1922〜1939）が設置され、同時に「トラック支庁」（モエン島、デュロン島、トル島ほか245島を所管）「サイパン支庁」（サイパン島・ロタ島・テニアン島ほか14島を所管）「ヤップ支庁」（ヤップ島ほか85島を所管）「パラオ支庁」（パラオ本島、アンガウル島ほか109島を所管）「ポナペ支庁」（ポナペ島、クサイ島ほか138島を所管）「ヤルート支庁」（ヤルート島・クェジェリン島ほか32島を所管）の6支庁が設置され、島民学校を南洋庁学校と改称して日本語教育を開始、その後の5月にようやく中国の山東省から、8月にはロシアのウラジオストクから日本軍は撤兵することとなった。